

平成25年度 活動報告 (年報)



中部森林管理局
木曽森林ふれあい推進センター

平成26年3月31日発行

〒397-0001 長野県木曽郡木曽町福島1250-7

TEL 0264(22)2122 FAX 0264(21)3151

E-mail : kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

一年を振り返って

平成25年4月に職員2名が転出し3名が転入と、1名増の4名体制で平成25年度が始まりました。

毎年恒例の行事となる、長野県林業大学校・木曾青峰高校の入学式への出席、城山史跡の森倶楽部とのベンチ設置・遊歩道整備を皮切りにスタートし、その後も、城山史跡の森でのハイキング、下流域住民等との植樹祭・森林整備、中学校・高校生による歩道チップ敷き・森林散策、NPOの森林整備指導等の行事が夏まで続きました。8月には教職員森林・林業体験研修会を開催し、多くの先生方に参加をいただき、学校関係者への森林・林業の大切さのPRを図ることができました。9月には、ボランティアによる木曾駒ヶ岳植生復元作業（マット敷設等）を開催し、多くの方々に参加いただき、自然再生活動を行いました。10月には、塩尻市において森林ボランティア・NPO連携推進会議を開催し、局管内4県の森林ボランティア等17団体・局署職員合計85名の参加により、1日目は簡易索張りや偏心木伐倒の実演などを行い、2日目はミニ木工等のワークショップを開いて地元市民等との交流が図られました。年が明けて1月には、昨年度に引き続き地元木曾青峰高校3年生が学校の演習林の間伐材等を利用したベンチ5脚を作製し、城山史跡の森倶楽部に贈呈する式典が行われ、地元振興に役立つ取組となりました。

一方、今年度新たに取り組むこととなった木曾地域の森林散策マップについては、どのように作ったらいいのか何もわからない状態で始まりました。考えていても何も始まらないと思い、考えられる散策路はすべて歩くという方針を立て、6月に入って時間がある限り木曾地域の森林を片っ端から歩き回りました。何箇所か歩くうちに、何となくどのような森林が紹介するのにふさわしいのかが見えてきて、次はどんなところなのかという期待を抱くようになり、歩くのが楽しみになってきました。このようにして9月頃までに約30箇所の森林の散策を続け、最終的に自信を持って勧められる10箇所に絞り込みました。それから改めて、選定した10箇所について写真を撮るとともに詳細に状況を見て回りました。その後デザイン等を外注し、業者とともにマップの作成に取りかかり、適宜、局署・役場等関係者に内容を確認していただき、何度も校正を繰り返し、2月末には無事「木曾路ナチュラルトレッキングマップ」として完成しました。3月には関係市町村・観光協会等に配布するとともに、中部森林管理局のホームページにアップし、誰でもダウンロードできるようにしました。このマップは木曾ヒノキなど木曾に特色ある森林を、利用者にわかりやすく案内することを心がけて作成しました。今後、一人でも多くの方がこのマップを手にとり、自然豊かな木曾の森林を散策していただけるよう期待しております。

以上、今年度から国有林野事業が一般会計化となったことから民国連携を強く意識した取組を行ってきました。その結果、昨年以上に多くの方々と森林を通してふれあい、楽しいひとときを共有できたことに感謝申し上げ、この1年間の振り返りの結びといたします。

[所長：近藤正彦]

活動内容等

ページ

第1	NPO等との連携による自然再生の推進及び森林環境教育等の支援	…	1
1	自然再生の推進	…	1
2	森林環境教育支援	…	13
3	森林散策路の情報発信	…	16
第2	支援体制の整備	…	17
1	地元自治体・NPO等の関係団体に対する支援体制を整備	…	17
2	木曾川下流住民による森林整備	…	21
3	小中学校の教職員を対象とした森林・林業体験学習会の開催	…	23
4	局管内で活動するNPO等の情報交換及び資質の向上を目的とした「森林ボランティア・NPO連携推進会議」の開催	…	24
	掲載された新聞記事の抜粋	…	26
	年間の活動内容	…	30

当センター設置の目的

- (1) 国有林野等を活用して、NPO法人等が行う自然再生、生物の多様性の保全、その他森林整備の推進及び森林の保全の確保を図る取組に対する技術的指導その他の支援に関すること。
- (2) 教職員等が行う森林の有する多面的な機能の発揮に関する教育及び学習に対する技術的指導その他の支援に関すること。

活動フィールド

主な活動区域を木曾森林管理署及び南木曾支署管内とし、ニーズに応じて局管内全域で活動する。

沿革等

平成16年	4月	1日	木曾森林環境保全ふれあいセンター設置 (所在地：長野県木曾郡日義村)
平成17年	11月	1日	木曾町誕生による所在地名変更 (所在地：長野県木曾郡木曾町日義)
平成18年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曾郡木曾町福島 5471-1)
平成24年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曾郡木曾町福島 1250-7)
平成25年	4月	1日	名称変更 「木曾森林ふれあい推進センター」

組織図



第1 NPO等との連携による自然再生の推進及び 森林環境教育等の支援

1 自然再生の推進

趣旨

NPO等との連携を図りつつ地域ニーズ等に対応した自然再生の取組を推進し、自然再生活動事業を実施する。

自然再生の取組自体は国有林とNPO等との連携のもとで実施しています。

(1) 長野県西部地震災害復旧地における自然再生事業

ア 肥料木として植栽されたハンノキ等の間伐による下層木の生長についての検討

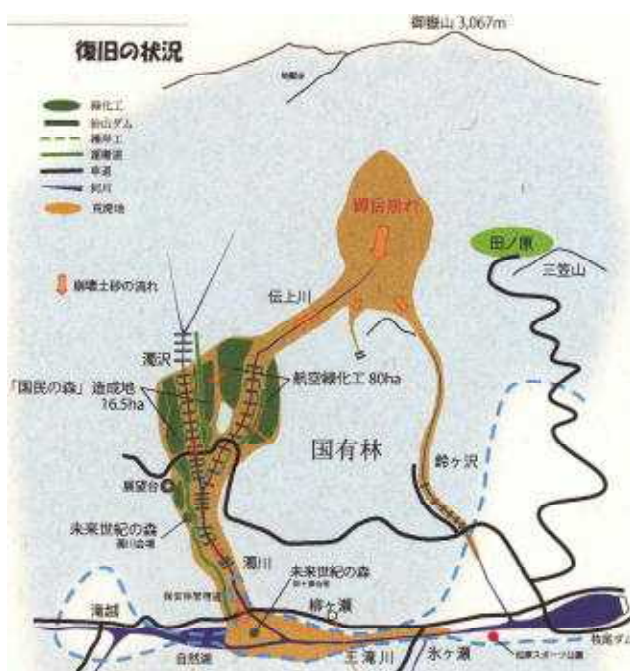
(ア) 事業概要

長野県西部地震（昭和59年9月14日）の発生から29年が経過しようとしています。災害直後より治山堰堤、緑化工事等の治山事業を主軸に積極的に事業を進めてきたことで、荒廃地が緑の森林に甦りつつあります。

また、昭和62年には中日新聞社との間に、同社の創業100周年の記念事業として、緑と水を守り、森林・林業への意識を高め、潤いのある国造りを目的とした「国民の森」を濁沢の造成地16.5haに設定しました。樹種は、早期緑化樹種（肥料木）としてヤマハンノキ、ヤシヤブシ、在来樹種であるヒノキ、サワラ、ミズナラなど約9万本の植栽が行われました。

以来、肥料木であるヤマハンノキ、ヤシヤブシは成長も早く森林の主体として上層木を形成し、一定の成果をあげつつあります。しかし、ヒノキ、サワラ等については、それら肥料木に被圧され今後の成長が懸念されることと、土石流により造成された土地は、まだまだ土壌の形成が未熟な状況にあります。

在来樹種中心の針広混交林への誘導を模索するため、「国民の森」内に設定した作業プロットとその対象区双方のモニタリング調査等を実施しています。



長野県西部地震災害復旧地略図
（「よみがえる御岳」木曾署）

(イ) プロット調査

上層木であるヤマハンノキの間伐試験を行い、4箇所のプロットを設置して下層木であるヒノキ等の成長量について、平成21年度から調査を行っています。

【プロット1：中段伐採】

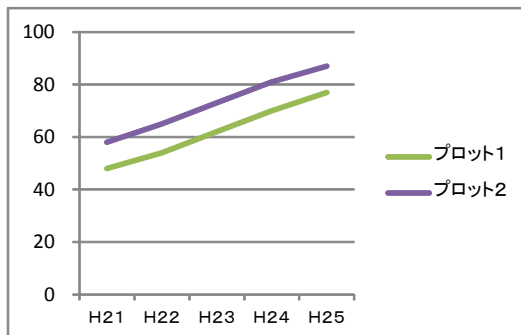
上層木であるヤマハンノキ等は、根茎に根粒を形成し、土中に窒素を固定する能力が高く、肥料分に乏しい痩せた地盤の土壤改良に肥料木として植栽されました。

しかしながら、ヤマハンノキ等の成長に伴い、下層植生等を被圧する影響が懸念されたことから、下層植生等の成長を促進し、かつ肥料木としての効果の持続を期待し、地上約1.2mのところでは中段伐採を行いました。

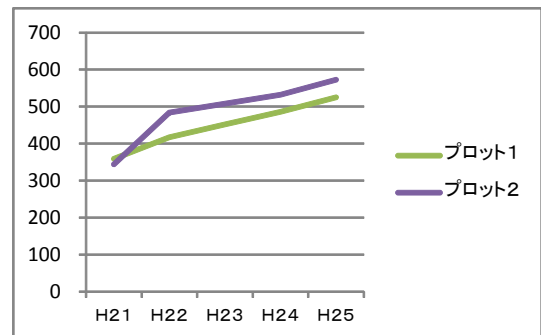
【プロット2：根元伐採】

上層木であるヤマハンノキを根元から伐採し、サワラのみとしました。

下層木であるサワラにおける中段伐採区と根元伐採区を比較すると、生育状況はあまり差がなく、同様の傾向を示しています。



平均胸高直径 (mm)



平均樹高 (cm)

【プロット3：列状伐採】

ヤマハンノキを列状に間伐しました。
直径、樹高とも良好に成長しています。

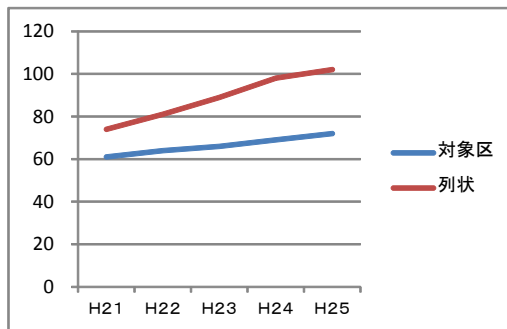


【プロット4：対照区】

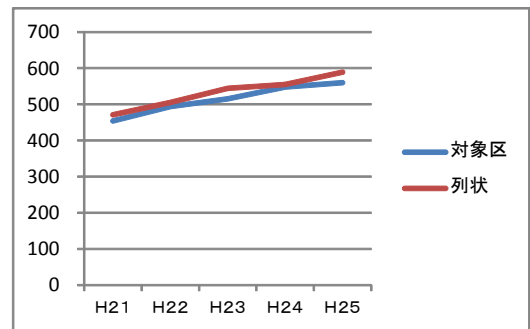
間伐を行わなかったため、下層木のヒノキの成長は良くありません。



列状間伐を行った列状区と間伐を行わなかった対照区の成長量について、直径の成長量が大きく異なり、対照区では5年間の成長量が10mm程度であるのに対し、列状区では30mm程度の成長量を示していることから、ヤマハンノキの間伐が直径成長量を促したと考えられます。



平均胸高直径 (mm)



平均樹高 (cm)

平成19年度にヤマハンノキの中段伐採を行ったところ、後生枝が発生しましたが、3～4年でほぼ枯損しました。

ヤマハンノキ等の落葉は貴重な土壌改良の要素の一つであることから、平成23年度に、中段伐採した木口面に雑菌の侵入を防ぐ処理をした試験地を設定し調査を行いました。

後生枝の発生状況は、平成24年度の調査では63%の株から発生を見ましたが、平成25年度の調査では24%となり発生率は減少しました。



後生枝の発生



枯損した株

イ 自然再生対策調査

長野県西部地震災害復旧地において、外部調査機関による自然再生対策調査も実施されてきました。

植栽後15年を経過した平成11年度に国土保全機能の充実をはじめ、保健休養機能等の充実を図るための森林造成のあり方を検討する総合的な林分に関する調査を実施しました。

災害復旧事業等により肥料木として植栽されたヤシャブシ、ヤマハンノキ等が成長し、当初の目的であった森林化による流出土砂の抑制は、ほぼ達成されており、長期的に安定した森林に回復させるためには、ヒノキ、サワラ、ミズナラ等の地域の在来樹種が定着した森林への誘導、再生を図っていく必要があることから5年後の平成16年度には、同地域において林分構造、樹種組成、土壌等の調査を実施しました。

今年度は前回調査から9年を経過したことから、経年変化を把握するとともに、今後の維持管理のあり方について検討を行う調査を実施しました。



固定プロット



調査の様子

土壌断面

ウ 今後に向けて

森林は現在発達初期の段階にあることから、自然再生対策調査等の結果を基に、施業方法等について検討し、立地環境に適応した安定的に持続する森林に誘導する必要があります。

長野県西部地震災害復旧地全景



昭和60年頃



平成25年

(2) 木曾駒ヶ岳における植生復元対策事業

事業概要

中央アルプス木曾駒ヶ岳稜線沿いなどの登山道わきでは、登山者の入り込み増加が誘因とも考えられる踏み荒らし等によって、高山植物の荒廃が進行しており、加えて大量の降雨、降雪による砂礫の移動や強風が植生の荒廃に拍車をかけています。

平成16年、植生荒廃の著しい登山道周辺を中心とする区域において、高山植物の現況と、将来的に荒廃した植生の復元を図るため、木曾駒ヶ岳に係る関係者の参加による意見、情報交換の場と位置づけ、関係する行政機関、学識経験者、山岳会、自然保護団体、NPO等を含めた幅広い分野の専門家による検討会を立上げ、植生の復元・維持管理のための具体的な方法等に関する検討を行い、それを元に方針を立てボランティアの協力の下、翌年度より植生復元事業を実施しています。

◎年度別マットによる敷設経過

年 月 日	敷 設 箇 所	面積 (㎡)	参加者(人)
17. 9. 29	天狗荘裏	210	26
18. 9. 21	天狗荘裏	210	30
19. 9. 19	伊那前岳八合目	210	36
20. 9. 18	乗越浄土・伊那前岳九合目・登山道沿い	213	31
21. 9. 02	駒ヶ岳頂上山荘横(鞍部)	202	31
22. 9. 14	天狗荘裏・伊那前岳方面	200	33
23. 9. 15	天狗荘北西・伊那前岳方面の新規と補修	191	36
24. 9. 12	駒ヶ岳山頂等・伊那前岳方面の新規と補修	235	36
25. 9. 12	極楽平周辺・三の沢岳登山道周辺	140	29
計		1811	288

注) 参加者には、ボランティア、行政機関等が含まれる。

以下に25年度の取り組みについて報告します。

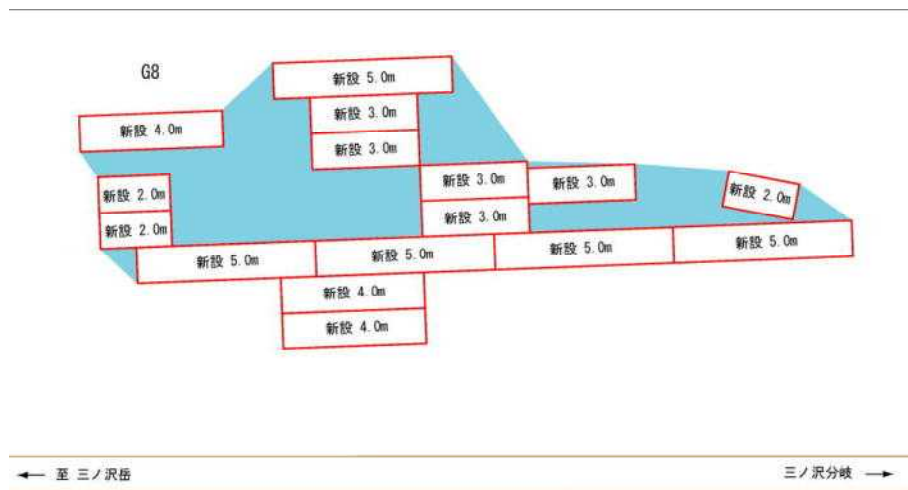
(ア) 25年度マット敷設箇所の選定

平成17年の開始から昨年までは木曾駒ヶ岳頂上周辺から伊那前岳周辺にかけて作業を行ってきましたが、今年度は三ノ沢岳登山のルート进行调查しました。

調査対象は、飛砂や砂礫の流出・流入を防止し、視覚的にも登山者に訴えかける効果も期待でき、ボランティアの皆さんにも参加していただきやすく、かつ啓発もかねて環境教育を実践できる場ということで、極楽平周辺及び三ノ沢岳登山道周辺を選定しました。



平成25年度敷設箇所位置図



平成25年度敷設計画図(三の沢登山道周辺)

(イ) マット敷設の実施

25年9月12日は好天に恵まれ、植生復元対策検討会メンバーをはじめとして、ボランティア14名を含め総勢29名で実施しました。

駒ヶ根市の菅の台にあるバス停に早朝に集合し、千畳敷ロープウェイ駅で開会式を行った後に、敷設用マット(1×5m)とピン(φ3mm×15cm)などの資材を参加者で分けあって背負い、作業予定地を目指しました。

極楽平で休憩後、極楽平及び三ノ沢岳分岐方面と三ノ沢岳登山道方面の二手に分かれ、現地で各担当職員からマット敷設手順の説明後実施しました。

また、あらかじめ採取しておいたイワスゲ、イワツメクサ、タカネツメクサなどの種子の播種も行いました。



マットを背負い作業予定地へ



マット敷設作業



マット敷設前



マット敷設後

(3) 「城山史跡の森」 自然再生・NPO等活動拠点整備事業

ア 「城山史跡の森」における「城山史跡の森倶楽部」及び地元自治体等との協働における森林整備及び森林環境教育の実施

木曾町福島市街地の北西に位置する城山国有林は、戦国時代木曾氏によって築かれた山城である福島城跡や木曾義仲にまつわる権現滝など伝承のある史跡等に恵まれ、木曾福島駅から比較的短時間で木曾ヒノキ、サワラ、モミ等の大径木や季節ごとの植物観察等が気軽にできるコースとして県内外からの観光客が増加しています。

「城山史跡の森倶楽部」と当センターが一体となって「城山史跡の森」の森林整備、案内看板や遊歩道等の整備を進め、木曾川下流域の人たちとの交流の場として活用しています。

(ア) 長野県指定、希少野生植物の増殖・保護活動

城山国有林「城山史跡の森」には、長野県希少野生動植物保護条例の指定を受けているササユリ、ヤマシャクヤク、カザグルマや、各地でも保護活動が盛んになっているカタクリの自生地があります。

本年も、ササユリとカザグルマの自生地において整備を行いました。

ササユリ自生地においては12月に、城山史跡の森倶楽部の会員の皆さんとともに、成長の助長のためにかん木等の除伐や林床の刈り払い整備及び、種の採り蒔き作業を実施しました。

また、期間中獣害等による被害もなく結果は得られませんでした。センサーカメラによる実態調査も試みました。

カザグルマの自生地においては5月に、カザグルマを支える支柱の取替え作業を実施、11月にクズが大量に繁茂していることから同倶楽部の助成の下、刈り払いと薬剤による枯殺処理を行いました。

今年度も、本数調査や増殖・保護活動を継続して行っています。

◎ ササユリ自生地の整備



刈り払い整備



種蒔き

◎ カザグルマ自生地の整備



支柱の取替え作業



自生地の整備



薬剤処理作業



薬剤処理したクズの根

◎ カタクリの調査

平成23年度	67本を確認
平成24年度	32本を確認
平成25年度	41本を確認



カタクリの自生地（24年5月）



カタクリの花（24年5月）

◎ ヤマシャクヤクの調査

平成23年度	192本を確認
平成24年度	153本を確認
平成25年度	194本を確認



ヤマシャクヤクの自生地（25年5月）



ヤマシャクヤクの花（25年5月）

◎ カザグルマの調査

平成23年度	192本を確認
平成24年度	153本を確認
平成25年度	194本を確認



カザグルマの自生地（25年5月）



カザグルマの花（25年5月）

◎ ササユリの調査

平成23年度	192本を確認
平成24年度	153本を確認
平成25年度	194本を確認



ササユリの自生地（25年6月）



ササユリの花（25年6月）

(イ)「城山史跡の森倶楽部」等が行う遊歩道等の整備及び植物観察会活動への支援

城山史跡の森倶楽部は、「城山史跡の森」の国有林のうち、城山風致探勝林(レクリエーションの森)に指定されている区域について、平成16年度に木曾森林管理署と「城山史跡の森における森林整備等の活動に関する協定書」(対象面積77.9ha)を締結し、協定に基づき歩道や森林整備作業、地域や上下流域の交流を図りながら森林環境保全意識の啓発活動や多様な体験活動(体験林業、自然観察会等)を実施しています。倶楽部のその年度の活動計画は役員会において作成されますが、当センターは、同倶楽部の活動全体を支援する立場で、情報の提供や助言、現地案内、技術・安全指導、道具の貸与、樹名板更新など協力を行っています。

A 遊歩道等の整備

(A) 4月14日、観光シーズンを迎える前、自然散策等を安全かつ快適に楽しんでいただくため、城山史跡の森倶楽部会員と共に、「史跡の森」の遊歩道等の傷んだ箇所を整備と1月16日に地元の高校から寄贈された新たなベンチの設置を行いました。



遊歩道整備



崩土さらい



ベンチ設置作業

(B) 7月7日及び9月9日、「史跡の森」の遊歩道沿線の除伐や危険木の除去作業並びに「城山史跡の森」に通じる林道の除草作業を支援しました。



遊歩道沿いの除伐作業



林道の除草作業

B 自然観察会等

(A) 4月29日、城山史跡の森倶楽部が主催する植物観察会が県内外約20人の参加を集め開催され、植物に詳しい県植物研究会員の講師の案内で春の芽吹き始めの森林約8キロを散策しました。当センターも講師のサポートとして出席しました。



大樹の胸高直径を計測する参加者



講師の説明に聞き入る参加者

(B) 12月9日、城山史跡の森倶楽部会員、当センター職員で小鳥の巣箱掛けを実施しました。

この作業は平成21年度から毎年実施しており、以前設置した巣箱のうち35箱を取り外し、今年地元の方が作成した巣箱38箱を新たに設置しました。巣箱の利用状況は、35箱のうち10箱で営巣・利用の形跡があり、今後も多くの小鳥達が営巣することを願い作業を行いました。



巣箱設置作業



営巣・利用の状況

イ「城山史跡の森」に生育する木曾五木のひとつ「コウヤマキ」の後継稚樹の育成

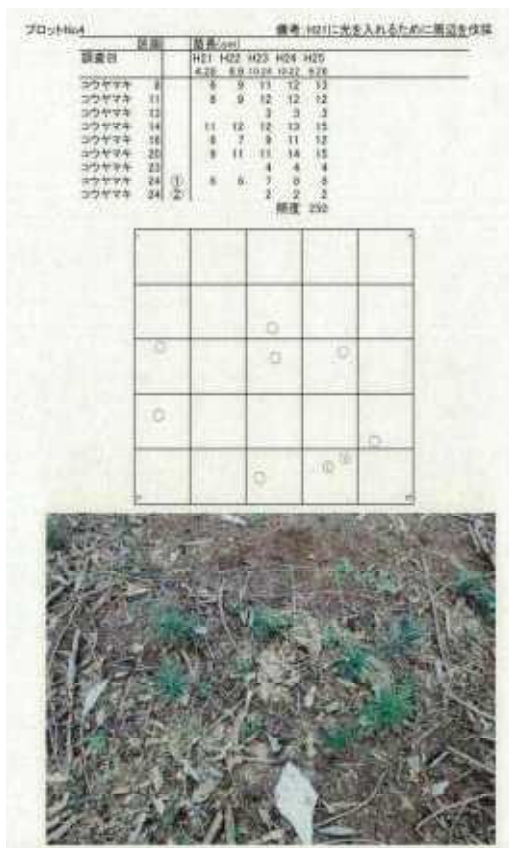
概要と状況

コウヤマキは日本固有の常緑広葉樹で、高野山に多くみられることが名前の由来となっています。以前はスギ科に含まれていたが、現在は独立したコウヤマキ科として扱われ、一科一属一種の極めて特異な樹種です。用途は建築、器具等に用いられ、水に強くて腐りにくいので、風呂桶や船舶等にも使われています。

木曾谷地域におけるコウヤマキの生育箇所は限られており、天然木は通常では目にする機会があまり多くありません。「城山史跡の森」の遊歩道の沿線には群をなして生育している箇所があります。



コウヤマキの低木



コウヤマキの天然稚樹育成のための調査プロット（1×1 m）を、平成21年度に5箇所設定し継続して観察を行っています。

各プロット内のコウヤマキの稚樹は2本から9本と少なく、プロット周辺は、木曾ヒノキ、サワラ、モミ等が林冠を形成し、下層はホオノキ、リョウブなどの広葉樹が占有して春から秋にかけての林床への照度は弱く、発芽条件が整わないと思われることから、後継稚樹の育成を目的とした補助作業である除伐を実施してきました。

平成25年度も、引き続き5箇所のプロットの稚樹の調査を実施しました。

新しい稚樹の発生は見られませんが、枯損した稚樹もなく、成長の良いものは苗長が38 mmにもなっていました。



稚樹

2 森林環境教育支援

(1) 学校等と連携した森林環境教育の実施

ア 5月24日、木曾青峰高校では新入生を対象に、森林環境教育の観点から、体験学習として赤沢自然休養林の見学と遊歩道へのチップ敷設作業を行いました。

これは、全国的に名が知られている地域にある貴重な木曾ヒノキの天然林を見学して、その森林遺産を認識すると共に、遊歩道へのチップ敷き作業をすることにより、森林の保全や社会貢献の意義を学習するために実施したもので、187名の1年生と20名の先生、職員が10班に分かれて森林散策とチップ敷設作業に汗を流しました。



チップ敷き作業



チップが敷かれた遊歩道

当センターでは木曾森林管理署と協力して、休養林内の千本立・奥千本などの林木遺伝資源保存林等の木曾ヒノキ林を案内し、この地の林業の歴史や天然林成立の経緯及び森林保護の意義などを説明しました。

木曾地域に生活していても、普段滅多に目にすることがない樹齢300年を超すと言われる木曾ヒノキの森に足を踏み入れ、生徒達は感動と感心の念を持っていました。



3時間かけて森林内を見学



林木遺伝資源保存林看板前で

イ 木曾青峰高校3年生による間伐材で作成したベンチの贈呈

平成26年1月22日に、木曾町の木曾青峰高校森林環境科3年生が、木曾町の城山国有林（城山史跡の森）をフィールドとして森林整備等の活動を行っている城山史跡の森倶楽部への木製ベンチ5脚の贈呈をおこないました。贈呈式典で同倶楽部の柿崎副会長から、「生徒さんが苦勞して作ったベンチを有効にかつ大切に使いたい。」と御礼の言葉がありました。

このベンチは、城山国有林に隣接する同校の演習林の間伐材を利用したもので、昨年10月から林産加工の実習で制作に取り組んできたものです。ことの始まりは、一昨年7月に当局長が当センターを訪れた際、「城山国有林に隣接する木曾青峰高校の生徒に何か工作物を作ってもらい、国有林に置くことができれば地域への貢献と生徒の地元に対する思い出になるであろう。」という話からで、その後、同校を訪ね、先生に経緯を話したところ「是非やってみよう」との返事があり実現に至ったもので、今年で2回目となります。

城山史跡の森倶楽部では、春の雪解けを待って、「城山史跡の森」の散策コースにベンチを設置する予定です。



生徒からベンチの贈呈



贈呈式の集合写真



それぞれ思いが詰まったベンチ



昨年紅葉ヶ丘に設置されたベンチ

(2) 他県学校への森林環境教育支援

ア 愛知県犬山市の犬山中学校は、近くを流れる木曽川との関わりが深いことから、上流の水源域である木曽での総合学習として、「休養林の意義を理解し、自然を守り育てる心を育むとともに、日本の豊かな自然に触れ、その仕事に携わっている人の考えに触れる」ことをねらいに、植樹や遊歩道へのチップ敷の体験活動をしています。

5月16日、同校2年生239名が、赤沢自然休養林でチームに別れ遊歩道へのチップ敷作業と植樹作業を行いました。

作業に先立ち、休養林の案内を行っているNPO法人「木曽ひのきの森」の会長から赤沢休養林のヒノキ林の生い立ち、また、水源としての上流域と下流域との関わりなどについて話しを聞きました。

当センターでは、木曽森林管理署の職員と連携して、記念植樹では唐鍬の使い方、植え付けの仕方を、また、チップ敷き作業ではチップの入った大きな袋を運ぶ生徒を励まして、敷く場所へ誘導し敷方の指導をしました。

生徒達も慣れない作業に汗をかきながら、森林の保全に役立っていることを実感していました。

作業の後は、森林鉄道に乗り森林散策を楽しみました。



これからチップ入り袋を持ち出発



立派に育つようお願いを込め植樹



皆で連携してチップまき



きれいにチップで整備された遊歩道

3 森林散策路の情報発信

当センターでは、局の新基軸の取組に沿って、本年度の事業の重点取組事項の一つとして、木曽地域に点在している森林散策路について、効率的な周遊の参考となるマップを作成・提供し、その利用の促進を通じて森林のPR、地域の観光資源を情報発信することにより地域振興に寄与することを目的に、散策路マップの作成に取り組んできました。

春先から、管内の保護林、自然休養林等内の散策路および地域の名勝地にある散策路について、現地踏査や写真撮影に職員一丸となって望み、2月末16ページのマップが完成し、3月には、地元地方事務所、市町村や観光協会等に配布し、中部森林管理局のホームページでもダウンロードできるようにしました。

散策マップは、地域の里山や比較的身近な国有林のお薦めウォーキングルートや見所を紹介し、広く一般の方々が比較的軽装で気軽に訪れ、自然観察や古道・史跡めぐり、滝めぐりなどランブリングしていただける10箇所の散策路や木曽の自然、木曽五木の説明等を掲載してあり、掲載の10の散策箇所は、

- I 里山の国有林に存置するレクリエーションの森
- II 温泉や観光地の近場にある国有林内の散策路
- III 近場の国有林に存する景勝地、ビューポイント
- IV 国有林内に存する史跡・古道(街道、石碑、道標)

をコンセプトの基本として選定し、木曽地域6町村(木祖村、木曽町、上松町、王滝村、大桑村、南木曽町)並びに近接する2市(塩尻市、中津川市)に渡り作成したものです。

また、マップは、関係機関等から好評を得ており、一人でも多くの方が木曽地域に足を運んでくれることを期待しています。



完成したマップの一部

第2 支援体制の整備

1 地元自治体・NPO等の関係団体に対する支援体制を整備

(1) 長野県木曾地方事務所及び林業関係団体等との連携

ア 木曾郡植樹祭の共催実施

県木曾地方事務所や自治体及び林業関係団体が主催する木曾郡植樹祭が6月6日に上松町の寝覚の床美術公園を会場に約4百名が参加して開催されました。

この植樹祭は郡下6町村で会場を持ち回りに開催しているもので、当地を管轄する木曾森林管理署と当センターが共催しました。

当日は天候もよく、上松小学校のみどりの少年団はじめ参加者は7グループに分かれて、オオヤマレンゲやナナカマド、サツキなど約400本の植栽と林内の下層木整理を行いました。

また、午後からは愛知中部水道企業団約90名がシイタケの種菌体験を行い、それぞれ自分でシイタケほだ木に種を植えたものを持ち帰っていました。



ていねいに植樹するみどりの少年団



除伐作業



開会式の模様



シイタケの種菌体験

イ 木曾地区みどりの少年団交流集会の開催

木曾地区のみどりの少年団が一堂に会して、緑豊かな自然の中で交流し、共同作業と森林・林業その他自然に関する学習活動を通して相互の連携を深め、緑を愛する豊かな心を育むことを目的とした「木曾地区みどりの少年団交流集会」が7月29日、県木曾地方事務所と木曾郡緑化推進委員会の主催で、木曾町の三岳小学校において開催されました。この日は、郡内のみどりの少年団12団体の小中学校から約100人が参加しました。

今年は雨天となったため、体育館を使用した催しとなりました。代表の4小中学校から日頃の活動報告があり、三岳小はクラスで野菜を育てていること、南木曾小は林業体験について発表。大桑小は村の育樹祭での除伐作業の報告、日義中学校は育てた花を校内や地域にも飾っていることを伝えました。その後アイスブレイクで友達の輪を醸成してから、10人ほどの班を作り、班対抗の木や山に関する〇×クイズを楽しみ交流を深めました。

当ふれあいセンターでは、地方事務所からの派遣要請を受け2名の職員を派遣し、指導に当たりました。



開 会 式



活動報告



アイスブレイク



班ごとに自己紹介で仲良く



盛り上がった〇×クイズ

(2) 木曽川下流域のNPO等が実施する森林整備を県、地元自治体等と連携した支援・技術指導

ア 木曽川水源地域の森造り協力事業 NPO法人 緑の挑戦者

名古屋市のNPO法人緑の挑戦者は木曽郡内3町村と森林整備協定を結び、木曽川下流域の市民を募集し森林整備をしています。

当センターでは該当町村の派遣依頼を受け、作業用具の貸出しと技術指導を行ないました。今年度は2回の実施（6月8日木祖村「こだまの森」カラマツ林の整備、9月28日木曽町福島ヒノキ林の整備）で、いずれも企業単位での参加者が多く、早朝からの参加にもかかわらず、職場の仲間同士で和やかに除・間伐作業を実行しました。



木祖村での春の作業



木曽町での秋の作業

イ 「ふれあいの森」森林整備 特定非営利活動法人 地球緑化センター

特定非営利活動法人 地球緑化センターは、木曽森林管理署と「ふれあいの森」森林整備協定を結び、ボランティアを募って赤沢の森林整備をしています。今年度は計2回、各回2日間ずつ延べ37名が間伐に汗を流しました。

本活動は森林学習と森林整備を併せて行なっており、宿泊が伴うことから毎回参加費を個人負担し活動をしていることに参加者の強い熱意が感じられます。当センターでは、木曽森林管理署の担当者と連携を図りながら、作業用具の貸出しや技術指導などの支援をしています。



参加者全員で記念撮影



作業前の打合せ

(3) 木曾五木の看板整備

当センター事務所では道路沿いに、木曾五木（ヒノキ、サワラ、ネズコ、アスナロ、コウヤマキ）を1本ずつ植栽していますが、道行く方々に親しみのある表示をしたいと考え、五木それぞれの樹種で樹名板を、天然ヒノキで「木曾五木」の看板を作製しました。

作成に当たり、材料は木曾森林管理署から調達し、材料の加工・文字入れは地元の木曾青峰高校に依頼しました。木曾青峰高校では森林環境科3年生と宮下教諭が作製に当たり、7月に完成し当センターで設置しました。

今後とも、地元高校生が丹精込めて作った看板を末永く見守りたいと思います。



「木曾五木」の看板



「さわら」の看板



木曾五木の全景

2 木曾川下流住民による森林整備

1 木曾川下流域の自治体が実施する森林整備を県、地元自治体等と連携した支援・技術指導

ア 「平成の名古屋市民の森づくり」事業への協力

木曾広域連合は、名古屋市が主催する名古屋城本丸御殿復元事業実施に伴い、将来の建築材供給を目指して木曾谷での森林育成活動を支援してきています。

5月11日に名古屋市からの一般募集の市民と職員あわせて約180名が木曾町の町有林においてヒノキやヤマモミジなどの植樹に汗を流しました。

当センターでは、職員派遣依頼を受けて作業用具の貸出しと共に、技術指導で支援しました。

当日はあいにくの雨となりましたが、名古屋方面からの参加者は雨合羽を着て、滑りやすい足元にもかかわらず、唐鍬を振るっていました。植樹された樹木には参加者のネームプレートを付けて、次に訪れたとき確認が出来るよう配慮されていました。

また、植樹の合間には協力団体の技術者が、カラマツの伐倒実演を行い、参加者からは倒れる時の迫りに歓声が上がっていました。



一生懸命に植樹



カラマツの伐倒実演

イ 愛知県みよし市「みよし市友好の森」間伐ツアーへの支援

木曾川の水の恩恵を受けている愛知県みよし市は、「友好の森」（木曾川の水源林となる木曾町三岳、御岳黒沢国有林841林班の一部を平成12年1月水源林として取得）において、森林保護、環境保全等の啓発や水源地域に住む人たちとの交流を図ることを目的に、市民ツアーを組んで森林整備（体験林業）に訪れています。

今年も9月28日に、市民や親子連れ40名が「友好の森」での間伐体験と森林散策に訪れ、地元からは町をはじめ関係者26名が参加し、総勢66名で間伐体験に汗を流しました。

当センターは木曾森林管理署職員とともに間伐体験の指導者や森林散策の講師を担当するなどの支援をしました。



森林整備に向かう参加者



自ら伐倒した木の枝落とし親子

ウ 木祖村・日進市合同育樹祭支援

愛知県日進市は、木曾森林管理署管内小木曾国有林において「平成日進の森林」として分収造林契約をしています。森林の手入れについては、木曾川の水の恩恵を受けていることから、地元自治体と友好自治体提携を締結して交流活動を実施しています。

10月19日～20日に、木祖村において「木祖村・日進市合同育樹祭」（木曾森林管理署共催）が行われ、木祖村及び日進市のみどりの少年団や市村民など約130名が、11の班に分かれて、ヒノキ林の除伐やつる切り等の作業に汗を流しました。

当センターも木曾森林管理署と連携して作業用具の貸し出しや安全作業指導等の支援を行いました。



開会式での木曾署高嶋署長の挨拶



中学生班のつる切り作業



日進東中・木祖中生徒



村長（中央）自ら豚汁提供

3 小中学校の教職員を対象とした森林・林業体験学習会の開催

児童・生徒の指導者である教職員を対象に森林・林業体験学習会を実施することにより、森林環境保全の重要性の普及と国有林を教育のフィールドとして活用してもらい、さらには児童・生徒へ森林環境教育が広がることを目的に長野県地方事務所との共催により、8月8日に木曾森林管理署管内の新高国有林で研修会を開催しました。

木曾・上伊那地域の8つの小中学校から教職員13名の参加を得、講師、スタッフ合わせ総勢22名で開催しました。

午前中は、木曾出身の教員OBで植物に詳しい楯講師と栲秋講師の案内により御岳山登山道開田口4合目付近から5合目までを散策しながら植物を観察し、イワツツジ、タケシマラン等50種類ほどの植物を学びました。



講師による植物の説明



林業現場の見学



伐倒体験する教師

午後の前半は、登山道入り口近くの新高国有林で、実際に高性能林業機械を使用して保育間伐している現場を見学しました。

参加者は、間近に見るプロセッサ、フォワーダなど最新の林業機械の働きに見入っており、「林業がずいぶん機械化され、持っていたイメージと違い驚いた」など感心の声が伺われました。

午後の後半は、教職員自ら手作業による間伐を体験し、3人1組により、高さ20m近いカラマツの伐倒に挑戦し、安全確認を行いながら交代でノコギリによる伐倒に汗をかき、「実際にやってみて大変、体験することは大事」との声があがっていました。

この研修会は、平成14年度から始まっており、今回で12回目の開催となり、参加者からは「貴重な体験ができ、子供たちにもこのような林業現場の見学や伐倒等の体験をさせたい」などの感想が多く寄せられました。



集合写真

4 森林ボランティア・NPO連携推進会議

森林ボランティア・NPO連携推進会議は、当局管内の富山、長野、岐阜、愛知の4県で活動している森林ボランティア団体・NPO等が一堂に会し、講演会や意見交換会、市民参加型のワークショップを実施するイベント「森・ふれあいフェスタ」を開催・運営することを通じ、団体等の更なる資質の向上と連携強化を図るとともに、広く一般市民に対し、国民参加の森づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPRすることを目的に今年度も開催しました。

10月4日（金）・5日（土）の2日間、長野県塩尻市片丘の私有林、及び同市小坂田公園道の駅において、「森林ボランティア・NPO連携推進会議」と関連イベント「森・ふれあいフェスタ」（連携推進会議実行委員会、中部森林管理局主催、長野県共催、塩尻市後援）を開催し、森林ボランティア団体・NPO法人など17団体と、森林管理局署の職員等、あわせて85名が参加しました。

1日目は市有林において、丈夫なナイロンロープとポータブルウインチを使用した簡易システムによる伐採木の搬出を飯田市の「薪人」が実演を行い、朝日村の「一期会」は偏心木（傾いた立木）の伐倒を実演しました。開会式では、主催者の実行委員会を代表して、「一期会」古田代表と中部森林管理局として松本森林整備部長から挨拶があり、参加者を歓迎しました。



簡易システムの説明をする「薪人」



偏心木の伐倒実演「一期会」



1日目参加者（森林ボランティア団体等）の皆さん

2日目は小坂田公園道の駅を会場に、一般市民を対象として参加団体が得意とするワークショップを準備し、参加者が協働してスタッフとなり運営するイベント「森・ふれあいフェスタ」を開催して市民との交流を図りました。

ワークショップは「ウッディ福笑い」、「竹とんぼ」、「竹笛」、「わら細工」、「ブリッジ積木」、「カンナくずプール」、「ミニ木工クラフト」、「薪割り」、「丸太切り」、「ドパスアート」、「森の？探し」、「ツリークライミング実演」の12ブースを、NPO法人きんたろう倶楽部、NPO名古屋シティ・フォレスター倶楽部、NPO法人やまぼうし自然学校、一期会、NPO法人地球緑化センター、城山史跡の森倶楽部、NPO法人ぎふし森守クラブ、金華山サポーターズ、NPO法人恵那山みどりの会、裏木曾古事の森育成協議会、加子母スカイウフォーカーズ、国土防災(株)、薪人、ツリークライミングWITH、持続可能な松本平創造カンパニーわおん♪、の各団体が分担して運営しました。天気には恵まれませんでしたが延べ368名の市民の方々がワークショップを体験されました。親子で満面の笑みを浮かべて楽しんだり、自作のクラフトを笑顔で親に自慢する子供に感心を示したりしていました。

2日間を通じ、参加団体の連携が深まるとともに今後の活動の幅や内容が広がる機会となり、また、多くの市民の方々がワークショップを体験し、森林・林業に対する理解を深めて頂くことができました。



歓迎の挨拶を賜った小口市長



薪割り体験



カンナくずプール



2日目スタッフ（森林ボランティア団体・職員）の皆さん

木曾駒ヶ岳における植生復元作業

長野日報

(1) 2013年(平成25年) 9月13日 金曜日 古紙100%使用



中央アルプスの駒ヶ岳(標高2000m)で、付けた荒地にマットを敷く参加者

中アの高山植物復元を
中部森林管理局 荒地にマット設置

中部森林管理局木曾森林センター(木曾町)は12日、上伊那郡の駒ヶ岳(標高2000m)で、中央アルプス麓や三の沢(標高約800m)付近の荒地に、高山植物の復元作業の一環として、マットを設置した。参加者は、登山者の踏み跡を覆って、高山植物の生育を促す。作業は2015年から始める。

中部森林管理局木曾森林センター(木曾町)は12日、上伊那郡の駒ヶ岳(標高2000m)で、中央アルプス麓や三の沢(標高約800m)付近の荒地に、高山植物の復元作業の一環として、マットを設置した。参加者は、登山者の踏み跡を覆って、高山植物の生育を促す。作業は2015年から始める。

森林ボランティア・NPO連携推進会議

市民タイムス

(7) 平成25年(2013年) 10月5日 土曜日

市民

森林整備の技術を学ぶ
16団体が連携推進会議

森林整備に携わる市民グループなどが集う「森林ボランティア・NPO連携推進会議」が4日、塩尻市で2日間の日程が始まった。中部森林管理局管内の長野、愛知、富山、岐阜の4県から16団体約60人が参加し、初日は軽量架橋による木材の運搬方法などを研修した。5日は市民対象の「森・ふれあいフェスタ」が開かれる。研修は片丘の市有林であり、飯田市の任意



簡易システムを使った木材運搬を研修する参加者

団体・薪人が、繊維口テープやボルトアルウインチを使った簡易システムでの木材運搬を体験した。ワイヤを使った大がかりな装置に比べて扱いやすく安全性も高いことから、ボランティアなどの活動に適しているという。丸太が山の斜面に沿ってゆっくりと引き上げられる様子を、参加者が熱心に見入っていた。会議は団体の資質向上や連携強化を図る目的で平成17年度に始まった。5日のフェスタは午前10時から小坂田公園で開かれ、まき割りや丸太切り、竹とんぼ作りなど多彩な体験プログラムを楽しむ。参加無料。(鎌倉 希)

本郷小学生体験林業

市民タイムス 10.24



管理署の職員から説明を聞く児童

赤沢休養林で体験学習
 松本・本郷小の4年生59人

上松町の赤沢 時間を利用して県の自然休養林で、自然環境や伝統文化について学ぶ体験学習の一環として、本郷小学校の4年生59人が、木曾森林管理署の職員から、木曾の歴史や、木曾の森の歴史について学ぶ体験学習を行う。5日(10月24日)は、本郷小学校の4年生59人が、木曾森林管理署の職員から、木曾の歴史や、木曾の森の歴史について学ぶ体験学習を行う。5日(10月24日)は、本郷小学校の4年生59人が、木曾森林管理署の職員から、木曾の歴史や、木曾の森の歴史について学ぶ体験学習を行う。

木祖村と日進市の合同育樹祭

中日新聞 10.20



ヒノキ林の手入れに励む中学生ら＝木祖村で

協力して森を手入れ

味噌川
ダム周辺 木祖と愛知の中学生ら

木祖村と愛知県日進市、今後も息の長い交流「平成日進の森林」市の合同育樹祭が十九日、味噌川ダム、流を、と歓迎。木祖村へ。植樹から十五年を日、市内の味噌川ダム、学校三年の青木諒太郎、経た林で、ヒノキに絡周辺であり、両市の「君」と日進東中学校、んだつる草と雑木を切、新人職員や中学生ら百、三年の林大雅君（もが、る作業に精を出した。三十人が木々の手入れに励んだ。

開会式では、栗屋徳也村長が「友好自治体

た。参加者は十一の班に

分かれ、ダム湖沿いのしに來たいと愛願を

のシンボルの森を通じ

「力を合わせて緑を広

げたい」などと宣誓し

た。優海君（巴は「林がす

つぎりして楽しい作業

だった。また手入れを

見せた。平成日進の森林は、約三十二町の国有林、両市村が友好自治体の提携を結んだ翌年の一九九二年度から六年間に九万五千本のヒノキを植え、春と秋の育樹活動を続けている。（福本雅則）

木曾青峰高校生によるベンチ作成・贈呈

中日新聞 1.23



城山史跡の森倶楽部の会員にベンチを手渡す森林環境科の3年生＝木曾青峰高校で

住民団体にベンチ寄贈

木曾青峰高生、手作りで5脚

木曾青峰高校（木曾三）三年生が初めてベンチ（町福島）森林環境科の十脚を寄付し、遊歩道に設置された。生徒らが二十二日、地元に住民グループ「城山史跡の森倶楽部」に、間伐材のヒノキで作ったベンチを贈った。倶楽部は二〇〇四年から、国有林の城山史跡の森で遊歩道の整備などを続けている。この森に高校の演習林が隣接しており、昨年の崎庫之助さん（せむら）の森にベンチを贈った。この日、副会長の柿一・五郎、倶楽部は四月に実施する春の整備に合わせ、福島城跡などに設置する。（福本雅則）

年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
4	5	長野県立木曾青峰高等学校入学式出席
	9	長野県林業大学校入学式出席
	14	城山国有林 城山史跡の森 森林整備
	15	城山史跡の森 樹名板設置指導（木曾町城山史跡の森倶楽部）
	22	木曾青峰高等学校 城山史跡の森散策案内
	25	赤沢自然休養林現地確認（上松町）
	26	木曾郡植樹祭打合せ（上松町）
	29	城山史跡の森 自然観察会案内（木曾町城山史跡の森倶楽部）
5	1	「城山史跡の森」カタクリ個体数調査
	8	森林ボランティア・NPO連携推進会議 担当会場下見（塩尻市）
	10	長野県立上松技術専門学校 間伐体験指導、森林案内（赤沢自国有林）
	11	平成の名古屋市民の森づくり 植樹 指導
	14	愛知県犬山中学校森林整備（植樹・歩道チップ敷き指導）
	16	森林ボランティア・NPO連携推進会議実行委員会（塩尻市）
	17	水木沢天然林 新歩道開通式典出席（木祖村）
	17	長野県西部地震災害復旧地における自然再生補助作業予備実施
	20	城山史跡の森 ヤマシャクヤク個体数調査
	21	長野県西部地震跡地ハンノキ成長調査（王滝村）
	22.23	経理担当者会議（中部森林管理局）
	24	長野県立木曾青峰高等学校 赤沢自然休養林歩道整備指導森林案内
	28.29	安全・健康担当者会議（中部森林管理局）
	29	城山史跡の森 カザグルマ開花調査
30	城山史跡の森 森林整備	
6	1. 2	NPO法人地球緑化センター 大樹の森・森林整備（間伐）指導（上松町）
	3	木曾郡植樹祭・植樹指導 準備（上松町）
	5	木曾路散策マップ現地踏査（柿其溪谷・恋路峠、南木曾町）
	6	木曾郡植樹祭・植樹指導（上松町・寝覚の床）
	8	「緑の挑戦者」森林整備指導（木祖村・こだまの森）
	18	木曾路散策マップ現地踏査（阿寺溪谷・大桑村）
	21	木曾路散策マップ現地踏査（権兵衛峠ジャンボカラマツ・奈良井宿杉並木）
	24	木曾路散策マップ現地踏査（上松町アカマツ・寝覚の床風景林）
	25	木曾地区高山植物保護対策協議会総会出席（上松町）
	27	木曾林業ネットワーク協議会出席（上松町）
28	木曾路散策マップ現地踏査（王滝村自然湖・三浦ダム風景林）	
7	1	愛知県阿久比高等学校 ボランティア作業準備（王滝村）
	4	森林ボランティア・NPO連携推進会議実行委員会（塩尻市）
	5	木曾路散策マップ現地踏査（馬籠峠風致探勝林・大平峠風致探勝林）
	7	城山史跡の森 遊歩道草刈り（木曾町）
	8	木曾路散策マップ現地踏査（木曾町、油木美林・不易の滝）
	9	木曾路散策マップ現地踏査（木祖村、水木沢天然林・奥木曾湖）

月	日	活 動 内 容
7	16	木曽曾駒ヶ岳植物保護看板設置
	17	木曽路散策マップ現地踏査（王滝村、御嶽7合目田の原）
	18	木曽町との行政懇談会出席
	22	教職員森林・林業研修会自然観察講師下見（木曽町開田高原）
	23	木曽路散策マップ現地踏査（馬籠峠風致探勝林・大平峠風致探勝林）
	24	教職員森林・林業研修会自然観察講師下見（木曽町開田高原）
	29	「緑の少年団交流集会」指導（木曽町、三岳）
8	1	愛知県阿久比高等学校、森林ボランティア作業地確認（王滝村）
	2	森・ふれあいフェスタ資材採取（赤沢国有林）
	8	教職員森林・林業体験研修学習会（開田高原）
	9	愛知県阿久比高等学校、森林ボランティア作業指導（王滝村）
	21	長野県西部地震跡地植生調査（王滝村）
	27	木曽路散策マップ現地踏査（木曽町開田高原風致探勝林）
	29	木曽路散策マップ現地踏査（南木曽町田立の滝）
9	5	森林ボランティア・NPO連携推進会議実行委員会（塩尻市）
	7・8	NPO法人地球緑化センター 大樹の森 森林整備（間伐）指導（上松町）
	9	愛知県みよし市森林整備打合せ
	10	木曽駒ヶ岳植生復元ボランティア作業用資材運搬
	12	木曽駒ヶ岳植生復元ボランティア作業 指導
	13	木曽路散策マップ現地踏査（王滝村瀬戸川風致探勝林）
	18	木曽路散策マップ現地踏査（木祖村・塩尻市、鳥居峠）
	25	木曽路散策マップ現地踏査（木曽町、地蔵峠）
	28	緑の挑戦者による森林整備指導（木曽町）
	28	みよし市森林整備指導（木曽町三岳）
10	1	衛生講話受講（木曽署）
	4・5	森林ボランティア・NPO連携推進会議（塩尻市）
	8	木曽駒ヶ岳高山植物保護、看板撤去
	15	長野県松本市本郷小学校森林体験、指導（赤沢自然休養林）
	16	木曽三川流域サミット（木曽町）
	17・18	人給システム講習会（中部森林管理局）
	19	愛知県日進市森林整備指導（木祖村）
	22	長野県西部地震跡地植生プロット調査（王滝村）
	24	長野県森林フォーラム参加、森林総合研究所との技術交流会参加
	29	H26森林ボランティア・NPO連携推進会議下見（塩尻市・下諏訪町）
11	5	カザグルマ自生地整備（木曽町城山国有林）
	6	木曽路散策マップ現地踏査（木曽御岳自然休養林）
	8	木曽路散策マップ現地踏査（木祖村、水木沢天然林）
	11	木曽路散策マップ現地踏査（大桑村、阿寺溪谷）
	12	木曽路散策マップ現地踏査（木曽町、油木美林）
	13	木曽路散策マップ現地踏査（木祖村、鳥居峠）

月	日	活 動 内 容
1 1	1 4	木曽路散策マップ現地踏査（南木曽町、田立の滝）
	1 5	管内風致探勝林踏査
	1 8	木曽路散策マップ現地踏査（木曽町、油木美林）
	1 9	H26教職員森林・林業研修会下見（赤沢自然休養林）
	2 0	木曽路散策マップ現地踏査（木曽町、城山史跡の森）
	2 6	木曽路散策マップ現地踏査（木曽町、城山史跡の森歩道）
	2 7	林政協議会木曽谷流域部会出席
	2 9	高性能林業機械現地検討会出席（木曽町、新高国有林）
1 2	5	H26業務打合せ（中部森林管理局）
	9	城山史跡の森小鳥の巣箱掛け
1	9	長野県カラマツ林業等研究発表会出席
	1 7	H26森林ボランティア・NPO連携推進会議下見（下諏訪町）
	2 2	長野県立木曽青峰高等学校 間伐材ベンチ贈呈式 出席（木曽町）
	29・30	中部森林管理局森林技術交流発表会出席
2	5	桶・樽サミット出席
	12～14	木曽路散策マップ掲載概要説明（木曽町、木祖村、塩尻市、王滝村、上松町、大桑村、南木曽町、中津川市他）
	25・26	H26森林ボランティア・NPO連携推進会議下見、打合せ（下諏訪町、伊那市）
3	3	木曽路散策マップ配布（木曽町、木祖村他）
	4	長野県立林業大学卒業式出席。木曽路散策マップ配布（王滝村、上松町他）
	5	長野県立木曽青峰高等学校卒業式出席
	6	木曽路マップ配布（長野市）
	10・11	H25年度第2回民有林支援等会議出席（松本市）
	1 1	木曽路散策マップ配布（塩尻市）
	1 2	木曽路散策マップ配布（大桑村、南木曽町、中津川市他）
	1 3	林政協議会木曽谷部会出席（上松町）
	1 4	技術開発委員会出席（中部森林管理局）
	1 7	城山史跡の森倶楽部総会出席（木曽町）

